

再評価調査書

事業名	太子地区地域総合オアシス整備事業（ため池等整備）			事業主体	大阪府
所在地	太子町				
再評価理由	事業採択後5年を経過した時点で継続中				
事業概要	事業目的	本地区は、飛鳥川流域にあるため池のうち、老朽化が著しい7箇所のため池の改修と併せて、浚渫土の埋め立てによる、公共用地の造成と、親水・修景護岸や遊歩道の整備を行い、安全なまちづくりと、地域の人々に「うるおい」と「やすらぎ」を与える水辺環境を創造することを目的とする。			
	内容	ため池改修7箇所（後屋池、中之芝池、春日新池、豊後池、南新池、北新池、上ノ池）、親水・景観のための施設整備1式			
	上位計画	オアシス構想			
	関連事業	_____			
事業の進捗状況等	経過	事業採択：平成8年度	事業着手：平成8年度	事業完了予定：平成15年度	
	進捗状況	全体事業費 586,600千円	投資事業費 316,340千円（進捗率 53.9%）		
		完了1箇所（後屋池） 工事中2箇所（中之芝池、春日新池）			
	整備効果発現状況	後屋池は、完了しており、決壊による災害の防止効果と、修景護岸や浅瀬に水生植物を植え、景観の保全や生き物生息機能を発揮している。			
課題	7箇所のため池を総合的に整備しているため事業期間が長期化している。				

事業を巡る社会的変化する状況	①ため池堤体の現況 (1)堤体の浸食率 5.1 ~ 15.0% > 5% (要改修基準) (2)堤体100mあたり漏水量 1.20 ~ 1.70 l/sec. > 1 l/sec. (要改修基準) ②ため池堤体決壊時の影響 (想定氾濫区域内) (1)浸水戸数 374 戸 (2)浸水農地面積 3.07 ha (3)農業用施設被害：用水路 2,076 m 農道 84 m (4)一般道路 1,813 m (5)公共建築物 8 棟 (6)被災者 437 人 (7)想定被害額 3,288,830千円 ③府民ニーズ オアシス構想策定 (H3) の際に行ったため池関係のアンケート調査（無作為に抽出した20歳以上の府民 1,000人を対象）では、府民はため池のもつイメージとして、「農業用水」との意見が47.1%を占めている。一方、農業用水としての利用度が減ったため池については、「保全しつつ地域ニーズを考慮した利用をすべき」や「現在もっている効用を利用すべき」等の潰廃すべきでないという意見が88.1%を占め、さらにため池の整備の方向としては、「散歩」「生態観察」「魚釣り」「休息」等多様な整備内容を望んでいる。また、平成9年の府政モニター 300人に行った、農空間基本方針策定調査によると、ため池を含む農空間への期待については「農空間の余暇的活用」が56.5%、「農空間の保全・整備」が37.0%、「交流・PR・イベント」が33.3%、「教育・福祉的活用」が21.3%、「食料生産」が17.0%であった。以上の結果から、ため池については、災害時に水や空間が利用できる地域防災機能や、生態系保全、自然学習、レクリエーションのための空間としての機能に対する府民の関心と要望が高まっていることが伺える。				
	①地域の現状 本地区は、古くからため池を用水源とした、府内有数の農業地域であり、各所に古墳が点在している歴史教育の場としても重要な地域となっている。また、東部が金剛生駒紀泉国定公園に属し、緑資源が豊富で貴重な動植物が生息する地域でもある。この地域におけるため池は、老朽化が進み、堤体の浸食が著しい状況にあり、一部漏水も起こっており、危険な状態にある。一方、周辺の都市化が進む中、農業用水の確保だけでなく、良好な水辺環境の整備を行うことにより、地域のアメニティとしての役割も期待されている。 ②地域の協力体制 ため池は、農業用水の確保はもとより豪雨時に洪水被害から下流地域を守る防災機能も有している。しかし、築造以来長い年月を経て老朽化が進んでおり農業団体はもとより周辺住民からの改修要望が増加している。 ③地域開発の状況 後屋池、春日新池の周辺は既存集落により構成されている。				
コスト縮減策	広場等の公共用地の造成にため池の浚渫土を利用				
その他特記事項	・改修後のため池の維持管理は、地元水利組合が行う。 ・本事業の財源負担の内訳 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>国 50%</td> <td>大阪府 25%</td> <td>太子町 12.5%</td> <td>地元農家 12.5%</td> </tr> </table>	国 50%	大阪府 25%	太子町 12.5%	地元農家 12.5%
国 50%	大阪府 25%	太子町 12.5%	地元農家 12.5%		

費用 便益 分析	具体的な便益内容			受益者	費用便益比	備考	
		老朽化したため池堤体が決壊した場合に予想される被害を改修によって未然に防止する効果 (1)浸水戸数 374 戸 (2)浸水農地面積 3.07 ha (3)農業用施設被害：用水路 2,076 m 農道 84 m (4)一般道路 1,813 m (5)公共建築物 8 棟 (6)被災者 437 人			想定氾濫区域内の住民	投資効率(費用便益比) B/C = 8.08 想定被害額 B 対象事業費 C (防災事業に要する費用)	
事業 効果 の 定 性 的 評 価 等	大項目	小項目 (農空間のもつ多面的機能)	効果の指標等	具体的な効果等		受益者	備考
	安全・安心	食料生産	ため池の受益面積	農業用水の確保により生産基盤が保全され農産物が安定供給される効果 (太子地区の事業対象ため池の受益面積 47.0ha)	農家		
		国土・環境保全		ため池の整備により農業用水が確保され、水田、畑の維持保全につながることで、地下水のかん養や、土砂流出防止といった、国土・環境を保全する効果	府民		
				かんがいのため水田に導水された農業用水が地下に浸透し、さらに河川(飛鳥川等)に還元され流況安定に寄与する効果			
	防災	貯水量		火災発生時の防火用水や、震災時の生活用水として活用 総貯水量 85.7 万 t (ため池7ヶ所の合計)	周辺住民		
				降雨時の雨水一時貯留する効果			
	活力	健康・レクリエーション		ため池周辺の散策等、公園的な利用	利用者		
		交流		親水護岸等のアメニティ施設の利用によるふれあい	利用者		
	快適性 (生活環境)	生活		良好な水辺環境整備により、快適な生活・住環境を形成する効果	周辺住民		
		景観		オアシス整備事業により、周辺の地味資源と調和した美しい水辺景観を創造	府民		
	環境 (自然環境)	生きもの生息機能		ため池は、淡水魚や野鳥や水生生物等の生息空間(ビオトープ)となっており、ため池が適切に維持管理され、また生き物に配慮した整備を行うことによる、生態系の保全効果	府民		
	その他	文化・伝統		歴史的文化遺産であるため池文化の保存	府民		
		リサイクル	浚渫土の利用による建設コスト削減額	ため池の浚渫土を利用した多目的広場の公共用地の造成	利用者		
教育・福祉			ため池を通じた学校教育の場の提供	府民			
自然環境等への 影響と対策	堤体改修による自然環境への影響が予想されるが、生態系の保全に必要な対策について取り組んでいく。						
その他 特記すべき 事項							